



[九州の世界文化遺産を訪ねて]

機関車が消えた - 河内貯水池建設のエピソード

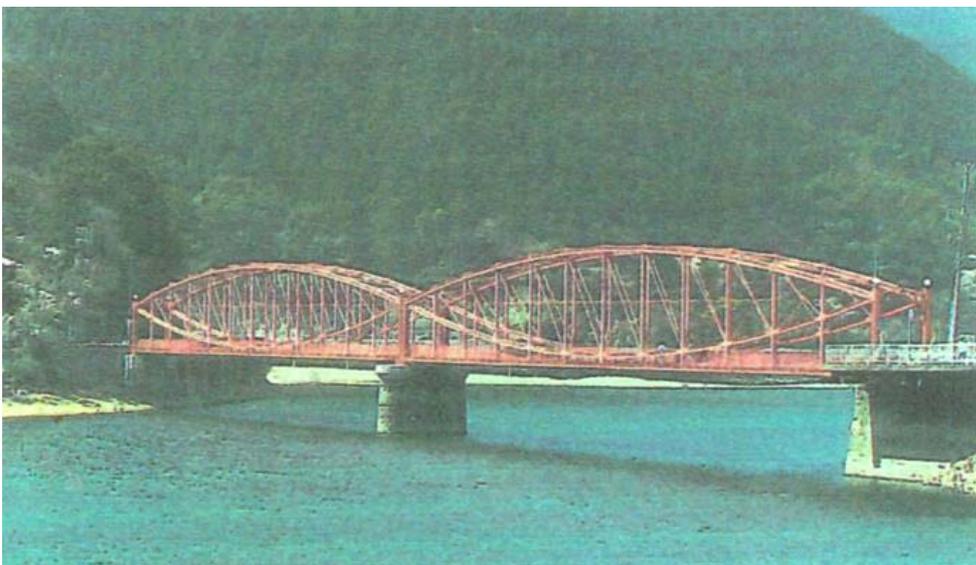
大 熊 隆 吉 (35年卒)

この度京機(会)九州支部平成27年秋の行事が北九州・筑豊で開催され、私の仕事の故郷である八幡製鐵所とその関連設備の見学の機会を得ました。その中から製鐵所の水資源である「河内貯水池」の建設のエピソードと併せて世界文化遺産に登録された旧本事務所を取り上げてお話しします。

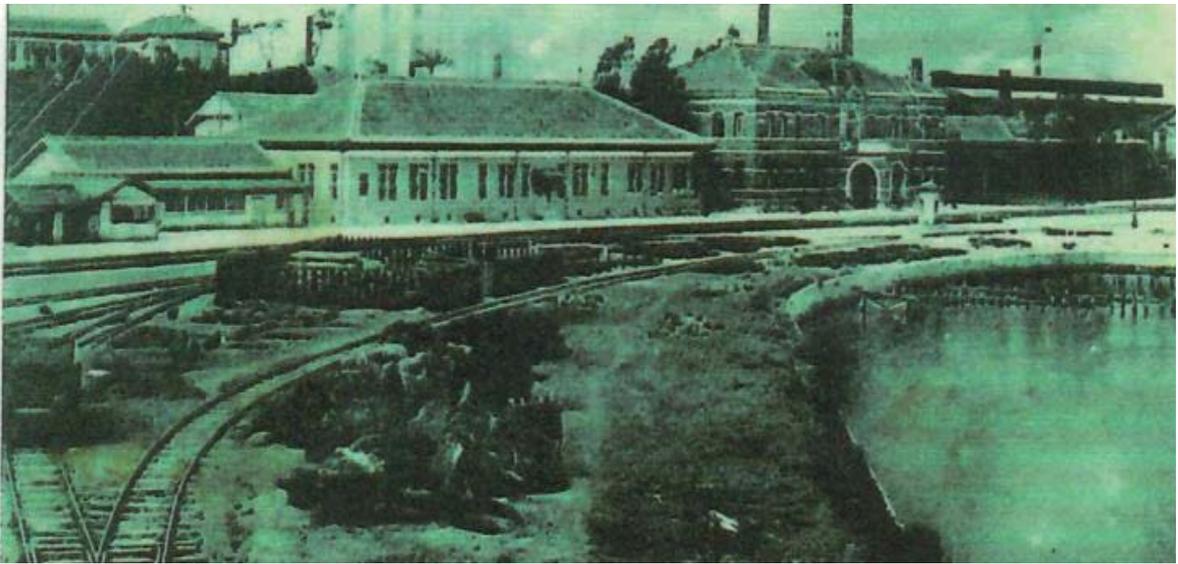
[注] 水資源では別の遠賀取水ポンプ場が世界文化遺産になっています。



(写 -)
河内ダムと貯水池



(写 -)
河内貯水池橋にかかる
南河内橋
日本に現存する唯一の
レンティキュラートラス



(写 -) 建築当初の本事務所とその周辺

「河内貯水池」は八幡製鐵所にとっては非常時の貯水池であり、普段は風光明媚な市民の憩いの場になっています(写 -)。

1937年第3期拡張計画の一環として、8年、90万の人手をかけて建設されました。建設の責任者、沼田尚徳氏(当時土木部長)は京大機械の大先輩で、製鉄業界に入社した第1号の方です(1900年)。先祖は水戸藩士ですが、尊王攘夷を掲げて戦った人だそうです。水戸の出身で東大に合格した後、この時できた京大に移って、就職は九州という面白い経歴の方です。貯水池の構造は重力式含石コンクリートダムで、これに掛かる橋の1つの南河内橋は鉄都ピッツバーグの橋を参考にしたレンティキュラートラス橋で現在も美的感覚を保っています(写 -)。

建設時に死亡事故が全くなかったことが特筆されますが、沼田氏は奥様をはじめ身内の方を亡くされ、ご親族の犠牲の中で建設されたという感もします。沼田氏の奥様を偲んだ碑「妻恋の碑」を見ましたが、妻への感謝と惜別の想いを込め



(写 -) 前面道路から見た景観

石の白と赤煉瓦の赤との対比が美しい



旧本事務所と尾倉修繕所

た英文の碑でした。そこに、KAWACHI WATAR-WORKS とあったのは、水は鉄に欠かせない物だなと今更ながら思いました。使用した石材は池の南部の山から、2台の蒸気機関車によって運搬されました。完成した後、1台の機関車は回収されましたが、他1台は姿を消したままで未だに発見されていません。完成した喜びとともに池の中に……。

1901年に完成した東田溶鉱炉とともに誕生した八幡製鐵所の事務所が尾倉地区に建設されました。事務所は市街地から離れた構内の奥に位置し、海（洞海湾）に面して建てられています。人の行来は当時、既に石炭で賑わっていた対岸の若松地区から行われていたと思われま（写 - ）。その構造は赤レンガ2階建てで、現在もなお鮮やかな美観を留めています（写 - ）。後に、本事務所は構外の枝光地区に建設され、私の入社時は八幡構内の事務所として用いられていました。今回同時に登録された隣の尾倉修繕所は入社初の勤務場所で、当時工作部機工課尾倉機械掛といい、工作部長は浅村竣三氏（26年卒）でした。懐かしい思いが一杯の旅でした（写 - ）。企画、案内戴いた西日本ペットボトルリサイクル㈱社長千々木亨氏（54年卒）に感謝します。

[参考文献]

- 1．京機会九州支部平成27年秋の行事オプショナルツアー北九州筑豊産業遺産めぐり 記録（平成27年12月6日）
- 2．北九州の近代化遺産 北九州地域史研究会 [編]
- 3．鉄都に生きた男たち第2話 「製鉄業界就職第1号の京大生」 千々木 亨 氏



(写 -) 旧本事務を背景に京大機械同窓生一同

[筆者略歴]

- 1 . 昭和 35 年京都大学機械工学科卒 (36 年修士 1 年修了)
- 2 . 昭和 36 年八幡製鐵株 (現新日鐵住金) 入社八幡製鐵所勤務
- 3 . 平成 10 年九州情報大学経営情報学部教授
- 4 . 平成 20 年社会福祉法人特別養護老人ホーム施設長就任

尚、本文は雑誌「NSK だより」(新日鐵管理技術部門出身者の研究会会誌) 第 109 号 (平成 28 年 1 月 15 日発行) に掲載したものを編集しています。

(おわり)

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

また、原稿が切れてきました。京機短信存続が問題になるレベルです。

是非とも投稿、お願い致します。 気楽に !!

但し、原稿のタイトルの次に、著者名と卒業年次を必ず記入してください。その記入のない投稿がかなりあり、編集者の仕事を増やしていますので、何とぞご配慮の程、お願い申し上げます。

【要領】

宛先は京機会の e-mail : jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。 宜しくお願い致します。

韓国の歴史を辿る旅

(その1)

藤川 卓爾 (S42 卒)

2016年2月13日(土)～16日(火)、3泊4日の「韓国の歴史を辿る旅」をしました。釜山、慶州、扶余、公州を訪ねて伽耶、新羅、百濟の歴史を辿る旅です。

筆者は火力原子力発電技術協会で「火力発電の歴史」シリーズの2番バッテリーとして「蒸気タービンの歴史」を担当しました。1番バッテリーで「発電用ボイラの歴史」を担当したのは元IHIのボイラエンジニア吉田 敏明氏(早稲田大学機械工学科卒)です。吉田氏が昨年「火力原子力発電」に寄稿した「鉄から見た日本の古代史」が今回の旅のきっかけです。同氏は「ボイラの歴史」に勝るとも劣らないほど古代史や製鉄技術の歴史に関心が高く、製鉄技術伝来元の韓国に過去にも1度旅行しています。吉田氏が過去の旅で見残したところがあるというので今回筆者と一緒に2度目の旅をすることにしま

した。それを韓国の京機会員の鄭 泰亨(チョン テヒョン)先生に話したら鄭先生も一緒に行ってくれることになりました。さらに、「京機短信」で同行の士を募集したところ3名の参加者が増え、1 Korean + 5 Japanese、1 Waseda + 5 Keikikaiの6人の旅となりました。参加者を写真1に示します。

1. 第1日目：釜山、金海 伽耶の歴史を辿る。
ソウルから2名、関東から3名、関西から1名の参加で、釜山の金海国際空港で午後2時前に集合することにしました。吉田氏は前々日から釜山に来て前調べをしてくれました。鄭先生は早朝にソ



写真1 慶州仏国寺での参加者集合写真

左から、
鄭 泰亨(S50) 漢陽大学名誉教授
藤川 卓爾(S42) 元MHI、元長崎総合科学大学、
Samsung Engineering Co., Ltd.
吉田 敏明(S43 早稲田大学) 元IHI、高効率発電システム研究所
浅野 保夫(S44) 元荏原製作所
田中 庸彦(S51) 京都市伏見区深草大亀谷万帖敷町
浅井 伸宏(S58) Electrolux Professional 日本・韓国地区代表
全員機械工学が専攻ですがとても歴史好きです。



写真2 伽耶

ウルを出発し高速バスで5時間かけて予定通りに釜山に到着しました。筆者は一寸楽をしようとして金浦空港からの飛行機を選びましたがこれがとんだ大間違いでした。当日釜山地域はものすごい濃霧に襲われて飛行機が着陸できないため、ソウルから釜山行きの航空便は軒並み欠航になりました。初めから欠航ならKTX(新幹線)に変更するのですが、どの便も出発予定時刻寸前まで"HOLD"の拳句の欠航が続きました。結局5時間待って午後4時発の1便だけが出ました。韓国の人たちは早々とKTXに切り替えたのか機内には空席が目立ちました。



図1 韓・さんずいに歳・倭・二郡の概略位置関係

一方、日本からの国際線は多少の遅れはあったものの成田発、関空発とも強行着陸してくれました。発起人である筆者のリスク管理不足により今回の旅は一番最初から大試練に見舞われましたが、とにもかくにも日本からの参加者が到着したので1日目は筆者を除く5名で伽耶の歴史を辿りました。以下は、吉田氏の原稿によります。

吉田は、飛行機の関係で他の参加者より2日早く釜山に入りました。2月13日(土)当日は朝から霧が濃く、釜山市内から金海国際空港へ向かう金海軽電鉄(羽田空港へのモノレールのように全区間高架)は霧の中を走っていました。視界はほぼゼロ。空港に着いて国際線の到着便案内板をみると軒並み遅延または欠航の表示、誰も来られないのでは?と心配になって藤川氏の携帯に電話したところ、藤川氏は金浦空港で辛抱強く待っているが、鄭先生は早朝に高速バスでソウルを出たので間もなく着くだろう、最悪の場合、1日目は鄭先生と2人で廻って欲しい、藤川氏は13日中には釜山のホテルに入るということでした。

そうこうするうちに目印である赤い上着と黒いズボン姿の鄭先生が現れ、鄭先生が予約しておいてくれたタクシーの運転手も現れました。初対面の挨拶などを行っている間に浅野氏、浅井氏が乗った飛行機が着陸、最後に田中氏の飛行機が無事着陸して藤川氏を除く5名が揃いました。そこで、当初計画の1時間遅れで1

日目の伽耶探訪の旅を始めました。冬の金海空港付近はいつもこのようなのかと鄭先生に尋ねると、こんなことは稀で昨日迄の雨が止み気温が上がったので濃い霧が発生したのだろうとのことでした。写真2は釜山から金海空港に行く途中の地下鉄の駅名です。

読者の皆様は「伽耶」という言葉を聞いて何を連想するでしょうか？ 私は鉄を連想します。歴史家として名高い中国の陳寿(233年～297年)は、西晋時代に『三国志』を編纂しました。その中の魏志東夷伝弁韓の条には、「国(=弁韓)、鉄を出す。韓、倭、みな従ってこれを取る。諸市買うにみな鉄を用い、中国の錢を用いるが如し。またもって二郡に供給す。」という鉄に関する有名な記事が載っています。韓・「さんずいに歳」・倭及び二郡(楽浪郡と帯方郡)の概略位置関係は図1に示す通りです。その後、図2に示すように、馬韓の地は百済が、辰韓の地は新羅が吸収しますが、弁韓の地の伽耶諸国は古代国家を作りませんでした。

注：鄭先生によれば概略、図1に示す洛東江の西が弁韓で、洛東江の東が辰韓と覚えれば良いとのこと。

鉄の産地として経済的に潤っていたので統一国家をつくる必要がなかったのか、あるいは鉄の産地であるがゆえに複数の他国の干渉がひどく統一国家がくれなかったのかの何れかであったと考えます。但し、図2のように、広義の伽耶は朝鮮半島の南部にあった諸小国全体を指しますが、狭義の伽耶は図3に示すような六伽耶などの特定の国を指すとのこと。朝鮮半島南部の三韓時代の製鉄遺構は、弁韓の地である洛東江流域～辰韓の地である慶州の周辺で見つっていますが、年代的には現在の金海市周辺が最も早く、一帯の遺跡からは鉄挺(てつてい)の先行形態である写真3に示す板状鉄斧が出土しています。板状鉄斧から鉄挺に完全に移り変わったのは4世紀中葉とされます。なお、この地域で鉄の生産が始まったのは、考古学的には紀元前1世紀とされますが、場合によっては紀元前2世紀までさかのぼる可能性があるとのこと。



図2 伽耶



写真3 各種の鉄斧

日本列島にいた倭人たちが、この時代に鉄を求めて弁韓地方と交易していたのだと思います。

写真4に示す金海大成洞(キメテソンドン)遺跡は狗邪韓国の都で、現在の金海市付近は金官伽耶の故地と言われていています。金海市付近にはこの他に、金海良洞里(キメヤンドンニ)遺跡、東萊福泉洞(トンネポクチョンドン)遺跡などがあります。これらの遺跡の発掘調査の結果、金海良洞里遺跡からの日本系出土品は北



図3 狭義の伽耶

九州のものが中心で、金海大成洞遺跡から出土するものは近畿地方のものであることから、倭との交渉相手は、狗邪韓国時代は北九州で、金官伽耶の時代になると畿内へ変わった。すなわち、狗邪韓国の地に金官伽耶が出来たことが分かったとのことです。



写真4 金海大成洞遺跡の全景(2月12日撮影)

伽耶文化を特徴づける出土遺物は、写真5に示す陶質土器と鉄挺と呼ばれる延べ板をはじめとする特定鉄器などです。写真6に大成洞2号墳から出土した鉄挺を示します。これを、皆さんと一緒に国立金海博物館で見ました。



写真5 鉄挺等の出土状況
(大成洞29号古墳、3世紀後半)



写真6 鉄挺(大成洞2号墳から出土、4世紀)



図4 亀旨峰、首露王陵周辺

これらの遺物が金海地方の遺跡から大量に発掘されたことから、金官伽耶の始まりは3世紀末頃と言われているそうです。



写真7 首露王陵

次に、伽耶で最初に訪ねた亀旨峰と首露王陵周辺の地図を図4に、金官伽耶の始祖と伝えられる首露王の陵を写真7に示します。首露王は西暦42年に写真8に示す亀旨峰に降臨した後、インドの王女と結婚して国を統治したと伝えられています。首露王は金の卵から生まれたという伝説から金姓を名乗りますが、金官伽耶の建国神話と古代日本の建国神話(=天孫降臨神話)には偶然といいきれない共通点があります。すなわち、記紀において天孫ニギノミコトイが降臨した山が「クジフル岳」で、首露王が降臨した山が「亀旨峰(クジボン)」なのです。よく似ていますね！最後に、実り多い楽しい旅として頂いた京機会の皆様へ感謝して、1日目の報告を終えたいと思います。



写真8 亀旨峰 (4年前撮影)

(つづく)

1 . 「IT・エレクトロニクス×地域活性化百選」発行

JEITA 電子情報技術産業協会

<http://www.jeita.or.jp/japanese/letter/pdf/vol16/01.pdf>

今、世界中で大きなうねりとしてIoTが注目されていますが、日本でも、実世界（フィジカル空間）とサイバー空間の情報連携により新たな付加価値を作り出すサイバーフィジカルシステム（CPS）の推進が期待されています。地域経済・社会との連携による当業界の地方創生へのさらなる貢献が期待される中、さらなる地域活性化のためにも、CPS/IoTの推進が不可欠であることから、昨年11月、当協会会員企業の先進的な取り組み事例を取りまとめ、『IT・エレクトロニクス×地域活性化選～CPS/IoT社会に向けて』を発行しました。一昨年11月に発行し、各方面で大変ご好評いただいております。百選の第2弾となります。

本文 <http://www.jeita.or.jp/japanese/local2/>

2 . JEITA 通信 日本の電子情報産業、今そして未来

解決策はあるか、産業オートメーション外部委託時の諸問題

欧州における産業オートメーション・サービスクラス活動と日本市場への適用可能性

2016.01.29 日経テクノロジー Online

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/419602/012600005/>

産業オートメーションシステムは、社会生活基盤を支える電力・鉄鋼・石油化学などの大規模プラントを24時間365日安定稼働させるための中枢神経系である。近年、プラントの設備老朽化や少子高齢化による人材不足・技術伝承不足の問題が深刻化する中、従来プラントを稼働させているユーザー企業の社員が行っていたオートメーション関連業務の外部委託が進んでいる。

3 . Samsung のスマホから読み取る半導体の業界再編

2016.01.29 日経テクノロジー Online

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/431723/012500005/>

スマートフォンやタブレット端末で必須のデバイスの1つが通信チップ（セット）である。無線LANやBluetooth、NFCのような近距離通信デバイスと、3G/LTEモデムのような広域通信の両者がセットで使われる（タブレット端末の場合は前者だけのモデルもある）。

4 . テクノ大喜利 【ゆくバズワード、くるキーワード】

日経テクノロジー Online

4-1 2016年の電子業界、よりよい社会の企画・設計を競う年に

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200053/>

「ゆくバズワード、くるキーワード」と題して、エレクトロニクス業界で2015年に話題に上がった言葉、2016年に新しい潮流を生みそうな言葉について議論。半導体のサプライヤー、半導体ユーザー、経営者、アナリスト、コンサルタントなど、回答者それぞれの視座からの注目点が挙げていただく。最初の回答者は、コンサルタントの立場から、アーサー・D・リトルの三ツ谷翔太氏である。

4-2 2016年、マイコン市場は消滅に向かい始める

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200054/>

技術コンサルタントの立場から、テカナリエの清水洋治氏である。

4-3 2016年、半導体市場で巨大化する中国企業の存在感

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200055/>

今回の回答者は、技術コンサルタント、ジャーナリストの立場から、微細加工研究所 湯之上 隆氏である。

4-4 2016年、IoTはより具体的な機器・サービスの名に換わる

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200056/>

アナリストの立場から、IHSテクノロジーの大山 聡氏である。

4-5 Mooreの法則終焉から始まる、半導体業界“真の頭脳戦”

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200057/>

技術者、経営者の経験を持った複眼的な視点を持つ学者の立場から、慶應義塾大学の田口真男氏である。

4-6 2016年は、ITインフラでのSD技術の行方を見定めたい

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200058/>

半導体や電子部品のユーザーの立場から、某ICT関連企業のいち半導体部品ユーザー氏である。

4-7 2016年もまた、列強と中国による異次元のM&Aが続く

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200059/>

技術コンサルタントの立場から服部コンサルティングインターナショナルの服部 毅氏である。

4-8 2016年の半導体は微細化が停滞、レガシー領域の革新に期待

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200061/?P=1>

半導体業界をウォッチし続けるアナリストの立場から、野村證券の和田木哲哉氏である。

4-9 2016年、半導体と電子部品の融合による日本の再生に注目

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/011200060/>

今回の回答者は、アナリストの立場から、IHSテクノロジーの南川 明氏である。

4-10 半導体産業の構造変化、実像が明らかになるのはこれから

<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/425600/012500062/>

2015年は、半導体業界をはじめとするエレクトロニクス業界全体で、超大型M&Aが相次いだ。業界をリードする企業がリスク覚悟で賭けに出る様は、未曾有の構造変化が着実に起きていることを印象づけた。そして2016年。エレクトロニクス業界は、どちらに向かい、どのような動きが顕在化してくるのだろうか。

5 . 日本と世界のPC市場～東芝・富士通・VAIOでPC事業統合はあるのか？

2016.1.21 情報通信総合研究所

<http://www.icr.co.jp/newsletter/gpre20160121-sato.html>

2015年12月4日「パソコン3社が事業統合 東芝・富士通・VAIO交渉へ」という記事が日本経済新聞の1面で報じられた。各社が正式なリリースを何も出していないのに、報道だけが先走っており、このニュースは日本経済新聞にとどまらず、他の新聞やテレビなどのニュースでも多く取り上げられて、注目の高さを伺わせた。

6 . 最後の砦は半導体事業、東芝は生き残れるか

2016.1.18 JBPRESS

サンディスクを失いNANDフラッシュ事業は片肺飛行に

<http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/45775>

2008年度以降の約7年間で総額2248億円の粉飾会計を行った代償は、東芝にとって高くつきそうだ。?まず、この粉飾会計のお蔭で、東芝は歴代3社長を含む元役員5人に3億円の損害賠償を求める訴訟を起こした。

7 . オフィス環境でのウェアラブル端末活用の試み

みずほ情報総研

<http://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2016/>

[mhir10_wearable_01.html](http://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2016/pdf/mhir10_wearable_01.html)

[http://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2016/pdf/](http://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2016/pdf/mhir10_wearable.pdf)

[mhir10_wearable.pdf](http://www.mizuho-ir.co.jp/publication/report/2016/pdf/mhir10_wearable.pdf)

ウェアラブル端末の活用方法を検討するため、複数名の被験者の協力を得て

ウェアラブル端末を装着し最大約 14 時間 / 日の心拍数データを収集した。オフィスで働く人の行動や身体状態を「可視化」する本試行を通じて、ウェアラブル端末を用いて長時間に及ぶ人のデータが取得できること、データに基づき人の状態の分析や推測が可能であることが確かめられた。

8 . 「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」第四次報告書

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban04_02000101.html

総務省では、円滑な IPv6 対応に向けた促進方策を検討するため、平成 21 年 2 月 27 日より、「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」(座長：齊藤忠夫 東京大学名誉教授)を開催しています。今般、同研究会において、IoT 社会の構築に向けた IPv6 対応の重要性等を踏まえ、第四次報告書～IoT 時代を拓く新たな戦略～を取りまとめましたので公表します。また、本取りまとめに当たって実施した意見募集の結果についても併せて公表します。

* (1) 経緯

総務省では、円滑な IPv6 対応に向けた促進方策を検討するため、平成 21 年 2 月 27 日より「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」を開催しています。同研究会では、世界的な IPv4 アドレスの枯渇に加え、IPv6 対応が加速する国際動向及び、多種多様なデバイス等が接続される IoT 社会の構築に向けた IPv6 対応の重要性を踏まえ、平成 27 年 7 月から議論を再開し、検討を行ってきました。その結果、今般「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会第四次報告書～IoT 時代を拓く新たな戦略～」が取りまとめられましたので、公表します。なお、同研究会では、第四次報告書(案)について、平成 27 年 12 月 5 日から平成 28 年 1 月 8 日までの間、意見募集を行ったところ、10 件の意見提出がありましたので、その結果についても併せて公表いたします。

* (2) 第四次報告書等の公表

当該意見募集の結果を踏まえ、本研究会で取りまとめた資料は以下のとおりです。IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会 第四次報告書(別紙 1) http://www.soumu.go.jp/main_content/000396010.pdf

概要((別紙 2) http://www.soumu.go.jp/main_content/000396011.pdf

<< 関係報道資料 >>

「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」(H21.2.23)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/090223_3.html

「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」報告書(H21.6.23)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/15271.html

「IPv6 によるインターネットの利用高度化に関する研究会」第二次報告書の公表及び「ISP の IPv4 アドレス在庫枯渇対応に関する情報開示ガイドライン」(案)に対する意見募集(H22.3.12)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/26311.html

「IPv6によるインターネットの利用高度化に関する研究会 第三次報告書」及び
「環境クラウドサービスの構築・運用ガイドライン」の公表（H23.12.9）

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/chousa/ipv6_internet/01kiban04_02000029.html

IPv6によるインターネットの利用高度化に関する研究会
「第三次報告書プログレスレポート」の公表（H24.7.31）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban04_02000040.html

IPv6によるインターネットの利用高度化に関する研究会
「第二次プログレスレポート」の公表（H25.7.26）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban04_13000001.html

「IPv6によるインターネットの利用高度化に関する研究会」
第四次報告書（案）に対する意見の募集（H27.12.4）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban04_02000099.html

本研究会の配布資料、議事要旨については、次のURLを御参照ください。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/chousa/ipv6_internet/index.html

9. サイバーセキュリティ戦略本部 第6回会合（H28.1.25）

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/index.html>

報道発表資料

http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06cs_press.pdf

我が国のサイバーセキュリティ推進体制の更なる機能強化に関する方針

http://www.nisc.go.jp/active/kihon/pdf/cs_kyoka_hoshin.pdf

議事次第

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06gijishidai.pdf>

資料1

サイバーセキュリティ戦略本部の副本部長の特定及び本部員の指定について

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06shiryoku01.pdf>

資料2

我が国のサイバーセキュリティ推進体制の更なる機能強化に関する方針（案）

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06shiryoku02.pdf>

資料3

政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群の見直しについて（案）

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06shiryoku03.pdf>

資料4

重要インフラ専門調査会における検討状況について PDF

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06shiryoku04.pdf>

資料5

政府のサイバーセキュリティに関する予算 PDF

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06shiryu05.pdf>

資料 6

2016 年「サイバーセキュリティ月間」(2月1日～3月18日)について

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06shiryu06.pdf>

参考資料 1

総務省提出資料 PDF

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06sankou01.pdf>

参考資料 2

経済産業省提出資料 PDF

<http://www.nisc.go.jp/conference/cs/dai06/pdf/06sankou02.pdf>

10. サイバーインテリジェンス活用戦略

KPMG

<http://www.kpmg.com/Jp/ja/knowledge/article/risk-advisory-thoughtleadership/Pages/cyber-threat-20160129.aspx>

巧妙に作り込まれた標的型メールや、ウェブサイト上の広告を見ただけで感染してしまう悪質なマルウェア、集中的な負荷を与えてシステムやネットワークをダウンさせる DDoS (Distributed Denial of Service : 分散型サービス拒否) 攻撃など、サイバー脅威は多様化の一途を辿り、その被害はおさまる気配がありません。こうした状況において、企業の経営者やサイバーセキュリティ責任者は手をこまねているのではなく、積極的な情報収集と解析作業を通じてサイバー脅威に関する知見の集積と諜報活動 (= インテリジェンス) を推進し、サイバー攻撃リスクを早期に予見することで先手を打ち対策を講じる、という一連の取り組みが必要です。そこで、本稿では、サイバー脅威の変遷と被害拡大の背景を考察し、サイバーインテリジェンスの活用によるサイバーセキュリティ態勢強化戦略について解説します。

<http://www.kpmg.com/jp/ja/knowledge/article/risk-advisory-thoughtleadership/documents/cyber-threat-20160129.pdf>

内容

1. サイバー脅威の変遷
2. サイバーインテリジェンスの定義と種類
3. サイバーインテリジェンス活用戦略